授業科目名	芸術への対話	単位数	2
担当教員名	安久津　太一	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	ヴァイオリニストとして１０年間米国に在住し、その間ニューワールド交響楽団での首席奏者としての演奏やハーレムでの音楽教育の実践に取り組んだ。		

「学位授与の方針」との関係

共感理解教育の理念を認識し、実践すること。芸術への対話を通して「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という星槎の３つの約束を実践し、共生社会の創造を目指す。

授業の到達目標及びテーマ

（１）「私」と芸術の日常の関わり合いを振り返り、再認識･再発見する。

（２）芸術と社会の関わり合いを、客観的に、問題意識を持って検証する。

（３）実際の音楽体験を通じて「芸術への対話」を体験的に学ぶ。

授業の概要

コロンビア大学のマキシン･グリーン教授（教育哲学）は、芸術は「すべての人々が生活の中で感じる素朴な疑問や純粋な発見、感動、自由な発想を試すことができる『リリカルな空間』の様なもの」と述べている。このように芸術は、必ずしも崇高なものとして生活から隔離されたり、難しく語られたりする存在ではない。そして芸術は、人々の生活に根ざした、社会との関わり合いの中で受け継がれて育まれていく。

当科目は、多様な経験、背景を持つ受講生、さらに音楽家である講師がお互いに関わり合って「芸術への対話」を探求する。人と芸術、そして社会との関わり合いを再考し、さらに体験的学習を通じて「芸術への対話」を共に育む共生社会の構築を目指す。

スクーリングでの学修内容

（１）受講者それぞれが、自身の芸術との関わり合いを振り返り、再発見･再認識する。
スクーリングではそれらの体験を、小グループでシェアする。

（２）使用教科書や映画のトピックを題材として、芸術と社会の関わり合いが抱える問題点を明らかにし、ディスカッションする。

（３）音楽を通じて誰でもいつでも参加できる芸術の関わり合いを体験的に学習する。

教科書

生田 久美子（２００７）『「わざ」から知る（コレクション認知科学）』東京大学出版会

参考文献

（１） Akutsu, T. (2017). Observable flow experience in a two-year-old Japanese child's violin playing. *Music Education Research.* (Accepted on 18, November, 2017).

（２） Akutsu, T. (2017). Constructing a "fast-protocol" for middle school beginner violin classes in Japan. *International Journal of Music Education.* pp.1-17.

（３） Sutani, S. & Akutsu, T. (2017). Technological assistance for musical communication: An action research paper on a musical theatre project in Japan. *Proceedings of Asian Pacific Symposium for Music Education Research.*

（４） Akutsu, T. (2017).「ヴィヴァルディ『四季～春』を題材にした参加型ワークショップ―学際的なコラボレーションの試行―*Japanese Journal of Music Education Research* Vol. 46-2.

（５） Akutsu, T. (2016).「子ども一人一人の学びを保証するツールとしてのフロー観察：幼児のヴァイオリンや他者との関わり合いの観察を通して」Japanese Journal of Music Education Practice.
（６） Akutsu, T. (2016).「書評：新版『スズキ・メソード』世界に幼児革命を―鈴木鎮一の愛と教育―」Book Review. *Japanese Journal of Music Education Research.*
（７） Akutsu, T, Gordon, R. & Noguchi, K. (2013). Critical pedagogy and children's musical flow: Curriculum design and assessment. In Lawrence, S (Ed.), *Critical practice in K-12 education: Transformative teaching and learning.* PA: IGI Global.
（８） Gardner, H. (1999). *The Disciplined Mind: Beyond Facts and Standardized Tests, The K-12 Education That Every Child Deserves.* New York: Penguin Books.
（９） Smith, F. (1998). *The Book of Learning and Forgetting.* New York: Teachers College Press, Columbia University
（１０）大橋 力『音と文明　音の環境学ことはじめ』岩波書店　2003 年
（１１）ヴィゴツキー（柴田義松訳）『芸術心理学』学文社　2006 年
（１２）チクセントミハイ（今村浩明訳）『フロー体験　喜びの現象学』世界思想社　1996 年
（１３）山田 奨治『日本文化の模倣と創造』角川書店　2002 年

学生に対する評価
スクーリング評価（２５％）、レポート評価（２５％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。